

滋賀県がん診療連携協議会・第2回相談支援部会

日時：平成27年10月28日（水）18：00～19：30

場所：県立成人病センター東館1F 講堂

【部会長】成人病センター 鈴木副院長

【副部会長】大津赤十字病院 芥田部長、市立長浜病院 伏木部長

【部会員】滋賀医科大学附属病院 木村看護師、
大津赤十字病院 がん相談支援センター 佐川看護師、
成人病センター がん相談支援センター 岡村相談員、
公立甲賀病院 がん相談支援部 柴田副部長、
彦根市立病院 がん相談支援センター 田中、
市立長浜病院 がん相談支援センター 新川副センター長、
高島市民病院 地域医療連携室 大塚、
大津市民病院 地域医療連携室 山澤室長、草津総合病院 吉村、
済生会滋賀県病院 がん診療支援センター 山田係長、
近江八幡市立総合医療センター 地域医療課 嶋田、
長浜赤十字病院 がん診療支援室 寺村、滋賀県歯科医師会 柴田理事、
滋賀県薬剤師会 渡邊委員、滋賀県歯科衛生士会 長谷川、
滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井会長、滋賀県がん患者団体連絡協議会 藤田、
滋賀県健康医療福祉部 奥井主幹、成人病センター 打田主査

【事務局】滋賀県立成人病センター 石見参事

【欠席部会員】滋賀県医師会 重永理事、滋賀県看護協会 西村副会長、

【オブザーバー】NPO 法人淡海かいつぶりセンター 時田センター長、
NPO 法人淡海かいつぶりセンター 廣原、
成人病センター 緩和センター 吉田副センター長

部会長あいさつ

（鈴木部会長）

皆さん今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。特にリレー・フォー・ライフは皆さんの頑張りで成功裏に終わりました。ただ非常に強い風が吹きまして少し危うい面もございましたが、無事終えることができました。ひとえに皆様方の御協力の賜物と思います。ありがとうございます。

さて相談支援に関しましてもそろそろ中間評価を求められる時期になりました。今日の議題1でも一番大事なものとして、審議事項の最初にあげておりますので、よろしく願いいたします。

人数も本当に多くなってまいりましてうれしい限りです。今回皆様方に自己紹介と思っているのですが、時間の都合上、新しい委員さん、新しくオブザーバーで来られたかいつぶりセンターの方々のご挨拶をお願いしたいと思います。次第めぐりまして裏ページ、本日の出席者名簿があります。新しく部会員ということで網掛けをしております。一般社団法人の滋賀県歯科医師会理事の柴田先生、ご挨拶よろしく願いします。

(滋賀県歯科医師会)

歯科医師会の理事をしております。今年からこちらへ出向かうことになりました。よろしくお願いいたします。

(鈴木部会長)

当会にはオブザーバー制度をしいておりまして、以前から吉田専門看護師に参加していただいておりますけれども、今回 NPO 法人淡海かいつぶりセンターからお二方お見えでございます。自己紹介をお願いします。

(NPO 法人淡海かいつぶりセンター)

皆様こんばんは。ただ今ご紹介いただきました淡海かいつぶりセンターのセンター長の時田由美子とお申します。よろしくお願いいたします。センターの内容はまた後で紹介させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(NPO 法人淡海かいつぶりセンター)

同じくかいつぶりセンターの相談員をしております廣原と申します。私は大津赤十字病院で長く看護師として、病棟にもがんの患者さんにも関わってきた経過があり、この 8 月からかいつぶりセンターに時田さんと一緒に相談をさせていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(鈴木部会長)

それでは次第に従いまして会議を進めてまいります。まず議題としては審議事項、報告事項、その他でございますが、まず審議事項です。相談支援部会の取り組みの中間評価についてよろしくお願いいたします。

【議題】

〈審議事項〉

1 相談支援部会の取り組み評価(中間評価)について

(事務局)

相談支援部会事務局の県立成人病センター地域医療連携室の石見と申します。よろしくお願いいたします。まず審議事項に入ります前に資料の確認をさせていただきます。ひとつは次第でホッチキス止めしている資料を 24 ページまでつけさせていただいております。本日配らせていただいた資料として滋賀県の健康医療課の資料が一部、かいつぶりセンターからの封筒のものが一部、患者会さんからあけぼの滋賀のご案内と、近畿がん政策サミットがん患者力向上事業案のご案内とお願い、笑顔サロン案内という 3 部の資料、こちらのほうはお手元にいつているかと思いますが、もし不足するようでしたら事務局へお声がけいただきましたらと思いますので、ご確認よろしくお願いいたします。

それでは議題、審議事項の 1 番、相談支援部会の取り組み評価、中間評価について入らせていただきます。

1 ページ見ていただきまして、下のほうのカッコ書きの方で 27 年度の実施計画に基づいて前半 10 月までやっているということになるわけですが、実績といたしましては、第 1 回のがん相談支援 WG を 6 月 1 日に第 1 回がん相談支援 WG、7 月 1 日に第 1 回部会、7 月 29 日にがん患者生活実態調査研修会、9 月 4 日にがん相談員研修会を開催しました。10 月 14 日には後期になりますが第 2 回がん相談支援 WG を開催して、10 月 24・25 日にはリレー・フォー・ライフ・ジャパン・しがに相談員の派遣をしております。そして本日 10 月 28 日に第 2 回部会を開催したということです。がん患者サロンについては

通年やっております。

中間評価ということで9月末時点ということになるのですが、評価についてはABCDありますがBランクとさせていただきます。内容については、第1回部会とがん相談支援WG、がん患者生活実態調査研修会、がん相談員研修会を予定通り開催したということと、後ほど議題にあがってきますが、滋賀の療養情報については今後内容を検討し、今年度中に作成するため準備を進めて行っていく予定です。

PDCAサイクルの実行にあたるがん相談後のアンケートについては、後ほど議題にあがってくるのですが、各病院によって課題もあって実施状況にばらつきがあるということですが、PDCAサイクルは非常に大事なものになってきますので、対象病院すべてで実施していく予定にしております。今後の経過も含めて年度末にはAランクに持っていきたいと思っています。中間時点では評価はBとさせていただきます。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。事務局案Bということですがご審議お願いします。いかがでしょうか。

確かに全体としてみるとAでもいいのではないかと意見もあろうかと思いますが、最終報告に大事にとっておこうというところもあるでしょうね。1つはアンケートに関しまして、私も研修会に出てご意見お聞きしましたけれども、まだなかなか横一線にというわけではなさそうなので、まだ進捗が足りない面もありますので、総合的にBになったと思っております。何か追加等ございませんでしょうか。またありましたら途中でもよろしいですのでご発言ください。

続きまして審議事項2番目、がん相談後のアンケートの状況についてよろしくお願いします。

2 がん相談後のアンケートの状況について

(成人病センター)

滋賀県立成人病センターの岡村です。PDCAサイクルの評価項目として、まずがん相談後のアンケートを実施することを今年度の目標にしていて、県立成人病センターでは4月から実施しています。ワーキングに参加してくださった方にはご報告させていただいたのですが、成人病センターで相談を受けている総相談が、9月末時点で933件、その中で面談が511件、その中でアンケートが実施できた方が165名とあがっています。アンケートの中、まだまだ数が足りないの分析というところまではいきませんが、アンケートを取った方で限定したとしても、患者さんの年齢層がかなり50代までの方が半分以上を占めているということであったりとか、初めての方が結構多いということであったりします。

相談内容とか相談後の気持ちの変化というところは、バイアスもかかりつつあまり役に立たなかったということは、アンケートには記載されていなかったのですが、少しくロスしてかけてみると、相談支援センターの窓口をどうやって知ったかという項目があるのですが、医療関係スタッフから聞いたという患者さんの相談前の気持ちが、例えばポスターを見たとかインターネットで見たとかで相談支援センターに来られた方に比べて、お顔の表情が比較的柔らかなところからスタートする、ということも少しわかってくる。相談支援センターに来られる前に医療者であったり誰かに話せたことで、少し気持ちが和らいで落ち着きながら相談に来れたと、そういう評価ができるのかなというところがわかってきております。

後この部会で作成した「滋賀の療養情報」の最終ページのはがきがなかなか回収できなくて、滋賀の療養情報が実際皆さんの手元に届いて見ておられるのか、役に立っているのか、この部会でもずっと議

題にあがっていましたが、少しですが、滋賀の療養情報を見たということで相談支援センターに来られた方がここでもでてきておられるということで、評価の指数になってくるのではないかと期待はしております。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。3 ページからグラフで示しておりますが、まだ解析するには今現在の 165 というのは少し少ない。書いていただくとか、受け渡しはバイアスがかかるとか、いろんな課題もあります。なかなか相談終わったその場でアンケートをお願いしにくいという意見もあつたりしますが、成人病センターである程度できていることでもありますので、皆様方、今後例数を高めていただきたいと思います。今ご報告にありましたように、男女の年齢や知ったところ、それによっていろいろ分析を行いまして、お顔の表情がどのように変化してきたか、その他のこともいろいろわかってくると思います。国のほうでもこういったアンケートに関しまして着手しているところでもありますし、こういうよりよいアンケートが全国統一版でできたらと思っています。よろしく願いいたします。何かご追加発言ありませんでしょうか。

(市立長浜病院)

勿論ワーキングでお話がでているのでしょうから、ここで混ぜ返すつもりはありませんが、ここで具体的な数字として面談 511 人に対し実際アンケートができたのは 165 名、半分どころか 3 分の 1 ぐらい、つまり全数アンケートからするともしかすると大分偏った情報しかとれてないなあと一方、渡せない事情というのはいろんなパターンがあるのでしょうか、変な言い方になるでしょうけど、どの施設にもそこそこ共通にあるバイアス、そういうことだろうと思うので、こういう範囲の人に渡しましたみたいな水準みたいなものが、ある程度層別に見えたりしたらいいのかなと思います。

もしかしたらこのグラフは、相談を受けた 511 人と対比したグラフを置くと、%にぐんと偏りがでてくる部分もあるのかなと。そういう人たちの例えば回数であるとか、続き柄であるとか、アンケートはしてないけれどわかる属性で比較してもらったりしたらどうなるやろうなあとと思います。もしかしたら年長者が多い、アンケートに答えられなさそうな高齢の方が多いのか、若年層で非常に混乱されているのでアンケートに答えてもらうのは酷かなという人たちも省かれているのかなと、いろんな場合があるのかなと少し気にはしています。

(成人病センター)

ありがとうございます。現況報告の度にそれぞれが相談シートという形で毎回面談の記録は残しているかと思っています。そこで年齢であつたり疾患であつたり、性別、どういった相談が多かったのかというところは出てきます。先生おっしゃってくださったように、クロスすることは十分できると思います。

(市立長浜病院)

大雑把な傾向はあるのですか。

(成人病センター)

成人病センターの運用としては、面談室を利用した全患者さんに渡します。病棟での面接というのが渡せていないというのが一つです。印象ですがやはり断られる方もいらっしゃいます。なかなかすべてのの方に書いてもらうというのは、難しいのではないかなと考えています。

(鈴木部会長)

他いかがでしょうか。何かございましたらまたよろしく願いします。では審議事項 3 番目、「滋賀の療養情報」の内容の更新についてよろしく願いします。

3 「滋賀の療養情報」の内容の更新について

(事務局)

「滋賀の療養情報」についてですが、今月行いましたワーキンググループの中でも、滋賀の療養情報の作成について議論をいただいたところですが、詳細については、ワーキンググループの中の少人数に絞った中で、作成ワーキンググループというものに委ねまして、来年度初めのワーキンググループおよび部会の方の了承を得て、今年度中に作成を目指していきたいという話になって、今新しい作成ワーキンググループのほうに参画するかしないかということで、相談員さんのほうワーキンググループのメンバーにお問い合わせをしまして、4名の方に手をあげていただきまして、事務局含めて5名のほうで検討していきたいと思っております。そういう形で進めさせていただいてよろしいかどうかを図りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(鈴木部会長)

ご説明ありがとうございます。条件もかなり変わってきましたし、高島市民病院さんも参加されましたし、また図書館との情報提供の場も新しくできております。がん教育とかそういうソフト面の変更もございますし、盛りだくさん変更点がございます。これに関して多人数でわっとやるのもいいのですが、キーパーソンを4名募りまして、そこで原案を作って以後実らせていこうというところですね。この方式でよろしいでしょうか。ありがとうございます。がんばってやっていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。審議事項、3つ並べましたがまとめてどれでもかまいませんから、ご追加ご付議ありませんか。

では次に報告事項に移りたいと思ひます。1番目がん相談支援センターの相談員の資質向上について、(1)がん患者生活実態調査ワークショップの結果について石見参事よろしくお願ひします。

<報告事項>

1 がん相談支援センターの相談員の資質向上について

- (1) がん患者生活実態調査ワークショップの結果
- (2) がん相談支援センター相談員研修会の結果
- (3) 就労支援研修会の開催
- (4) 「地域相談支援フォーラム in 近畿」について

(事務局)

一番目のがん患者生活実態調査ワークショップについては、去る7月29日水曜日に行いまして各病院から11名の参加をえました。そこで各病院から事例を持ち寄っていただき、中で検討していただき、議論していただいた結果になっております。この結果については、県から同志社大学に委託して行っておられるがん患者生活実態調査ということですので、年度末にがんの事例集を作成された結果が出てくると思ひますのでその結果が出次第、ご連絡させていただきたいと思ひます。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。引き続き5ページがん相談支援センター相談員研修会の結果についてよろしくお願ひします。

(成人病センター)

相談員研修会のアンケート結果についてです。例年11月に開催してございましたけれども、10月11

月はイベントが盛りだくさんなので、9月に開催していこうということで今年度は9月4日に開催しました。参加人数は14名、アンケート回収率は100%ということで皆さんすごく熱心に研修に向き合ってくれたかなというところです。自由記載に書かれています、例年基礎研修3の滋賀県版という形で、相談員の基礎を軸に研修会を企画しています。例年ですけど、基礎に振り替えることができたであったり、基礎が大事だとか、毎年こういう研修を希望するというアンケート結果が返ってきますので、やっている企画側としてはやったかいがあるかなと思う一方、なかなか相談員が企画して運営して、実施していくというところで各相談員さんにご負担がかかりすぎているという危惧もあります。企画に関しては続けて進めていけたらと思いますが、運営に関して事務局の方もよろしく願います。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。5ページから7ページにかけてアンケートを詳しく載せておりますので、またお時間のある時にご参照ください。今岡村さんから企画する相談員の負担がかなりあるとおっしゃいました。具体的にプログラムはないのですが、私も始めと終わりに参加させていただきましたけれども、かなりタイトでよい企画ですが、こういう企画に関するアウトソーシングというのはそういう会社はないのでしょうか。

(成人病センター)

今のところ聞かないですね。国がんが指導者研修ということで毎年指導者を養成して、地域に持ち帰り研修を企画運営してくださいということで、4年前に私と嶋田さんと吉田さんと参加させていただいて、そこからずっと企画をしている。二期生として、新川さんと大津赤十字病院の山本さんと今は市に行かれています。彦根市立病院の藤井さんが行ってきていました。相談員の異動もあって、企画運営する指導者が減ってきているのが現状です。

(鈴木部会長)

ありがとうございます。本当に御苦労さまです。単なる学会とかでなく学術集会では企画運営をアウトソーシングするのですが、何分相談支援という患者さんとのコアな部分なので、実際の実務担当者が手作りしている。その実務担当者もいろいろスーパーバイズ受けながら自分を高めていかないといけないというそういうしんどさはあります。そこもよろしく願います。

続きまして、3番目、就労支援研修会の開催についてよろしく願います。

(成人病センター)

今年も2回目になりますが滋賀県がん患者就労支援研修会を企画しています。開催日時は12月11日金曜日を予定しております。二部制を考えていて、第一部は公開講座、第二部をワークショップとしています。公開講座に関しては広く対象を広げて、医療機関であったり行政であったり、その他がん患者の就労支援に関心のある方という形で対象を広げています。内容についてはプログラムに記載しているとおりでありますが、前年度企画してアンケートの結果で、実際どういう支援があるか、社会保険労務士であったりハローワークとの連携のことを知りたいというアンケート結果がありましたので、今回は実践ということで労災病院さんのほうであったりとか、社会保険労務士さんであったりとかハローワークであるナビゲーターと連携しておられる方、愛知県がんセンターのほうからご報告していただく。最後に国の動きということでお話になるというプログラムを企画しています。

第二部に関しては、相談員さんを対象に就労支援というのはどういうものなのかということを通例を通して検討していくという企画にしています。この認定がん専門相談員のポイントに申請しております。一部二部ともに参加していただいた方に参加証を発行する予定にしています。皆さんぜひご参加く

ださい。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。認定がん相談員のポイントになるということですね。公開講座に関してはいろんな方向性から各方面のスペシャリスト、オピニオンリーダーの方が来られていますね。特に労災病院に関しましては成功例は少ないらしいですがきちとした成果をだされているというところで、その辺のノウハウが聞けると思われます。これは以前菊井さんとも一緒にいましたセミナーでこういう話があったように記憶しておりますが、皆さんご参加のほどよろしくお願ひします。

つづきまして報告の4番目、「地域相談支援フォーラム in 近畿」についてよろしくお願ひします。

(事務局)

こちらについては今朝届いたばかりのホットなものを載せさせていただいております。11、12 ページをご覧ください。こちらのほうは近畿ブロック6府県のがん診療連携協議会相談支援関連部会と国立がん研究センターとの共催という形になっておりまして、1月23日土曜日の10時から16時半にTKPガーデンシティ大阪梅田という大阪駅からも福島駅からもかなり近く歩いていけるような便利なところで開催される予定です。プログラムについてはこちらを見ていただくとおりで、うちの部会員のほうからも公演等、パネルディスカッション等参加していただくということで、菊井さんの方も午前の部でパネルディスカッションに出ていただきますし、午後の部に岡村さんの方からご報告があるということです。こちらにつきましては、国がんのホームページに近々掲載される予定ですので、ご確認していただきたいと思っております。

募集人数は運営委員を除いて160人程度ということで、1施設1人という原則になっております。それ以上になると調整されるということになると思ひます。経費については、参加費は弁当実費千円と載っております。旅費等は参加者の負担になるということです。フォーラム参加者には参加証書を交付しますと載っております。申し込み方法については、ホームページに掲載されるものの申し込み用紙、リンクをはるということで、必要事項を記入されて選択された上で各府県の送信先メールアドレスのメールでお申込みくださいということです。私宛に送っていただいたら申し込みさせていただきますのでよろしくお願ひします。申し込み期限については12月10日木曜日の17時までになっていますので、よろしくお願ひします。受付選考結果の通知については、参加申し込みをされた方には、1月7日木曜日までに、申し込み時に記入されたメールアドレス宛に選考結果通知を送信しますのでよろしくお願ひします。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございます。地域相談支援フォーラム、初めてお聞きになられる方もおられると思ひますが、本来相談支援に関しましては、滋賀県のこの部会のように各都道府県がいちばん大きな単位としてやっておったのですが、府県を超えてある程度の大きな地域、そこで相談支援のノウハウを共有するお互い勉強しあうということで、よりよい結果が生まれるのではないかということが国がん主導でわかってまいりましたので、全国各地でこのような少し大きめの地域で進んでいると思ひます。

近畿においては今回初めてというかまだできていなかったという表現のほうがよろしいですね。

ぜひ皆さんご参加よろしくお願ひします。以上報告事項1 資質向上というところに焦点をおいた報告でしたが、何かご追加等こういうこともありますよとか、こういう企画もありますよとか、各所属でもしお分かりのところがあればお教えください。

では二番目図書館との交流についてうつつらせていただきます。図書館に関しまして、情報提供の場

としては非常に望ましいということで、国の肝いりで始まっていますが、そのへんのざっとした経緯を岡村さんにお話を願って、その後全国図書館大会での県からの報告、これは私が発表しますのでそれを報告いたします。がんとともに生きる講演会、今後行われますがこれについても報告いたしたいと思います。

2 図書館との交流について

(1) 全国図書館大会での滋賀県からの発表について

(2) がんとともに生きる講演会について

(成人病センター)

滋賀県図書館連絡協議会さんとは3年前から連携について模索するというので、交流会という名を持って2回交流させていただいたところです。新たな連携というところで各圏域での連携が始まりつつあるという段階です。鈴木先生のほうから全国図書館大会で滋賀県の現状をご報告いただいたということです。以上です。

(鈴木部会長)

では最初の全国図書館大会での滋賀県からの発表についてご報告します。これは全国図書館大会のほうから県のほうに発表依頼がありまして、基調報告として一つは県全体として図書館との協働をどう考えているか、滋賀県方式について話をしてくれと。もう一つは東近江図書館から演者がでたのですが、具体的にどのような活動をしているか、その二つを基調にいたしまして、その後1時間くらいのシンポジウムを持ちました。

座長は日本の図書館学の権威の慶応大学の名誉教授になられました田村先生でした。これに関して私が兼務で行っております県のがん疾病対策室の野中さんが、基本的にパンチ絵を作られてパワーポイントにされまして、私がそれにならって発表したということでもあります。

まずつかみとしていろいろお話をしたのですが、人口10万当たりのお寺の数はどの府県が一番多いかということをお話しますと、皆に聞きますと全員わからないと。京都奈良だろうと。でも京都奈良は7位13位ですね。1位は滋賀県なんです。皆さん東京に行かれる時、新幹線でずっと車窓を見るとお寺が非常に多いわけです。私も今から6年前にこの協議会ができた時にこのお寺の数の多さ、ここが相談支援の舞台になると思って、当時この事務をしておられました谷本さんと話をしたのですが、先生それは宗教だからと一蹴されましてなるほどと。そういう場を探したのですが、相談支援部会と図書館との協働ということで見ますと、まさに地の利を得たりということなんです。滋賀県の図書館に関するデータに関しましては、年間1人当たりの貸出数は日本一、二位は東京、滋賀県における各市町における図書館の設置率がなんと100%、どんなに財政が苦しい市町においても図書館だけはあると。敷居が低いですね、無料です。そういうところをしっかりと情報源にできないかということで、県はがん基金とかその辺を活用しながら図書館を応援しているということなんです。具体的にはパンチ絵がここにいろいろありますけれども、順に読んでいただければおわかりになると思います。また東近江図書館の試みもでているわけですので、これは後ほど、何等かの形で皆さん方にメーリングリストで細部をあげておきますので、そこでじっくり読んでいただければと思います。

従いまして、会場は超満員でしたし、このように滋賀県方式ですなわちがん基金を活用して条例に基づく基金ができて、その基金でもって図書館との協働を積極的に進めているところは初めてなので、また図書館に関しても全国区になりつつあるそういう状況です。以上報告終わります。

つづきまして、がんとともに生きる講演会についてよろしく申し上げます。

(事務局)

11月3日火曜日の祝日に長浜の文化芸術会館で実施される、「がんとともに生きる～知ることからはじまる～」という公共図書館と医療機関の連携による講演会が実施されます。これはがん対策団体民間等の自主事業費の補助金を滋賀県公共図書館協議会が受けられまして、そちらが主体になって実施されるわけですが、こちらの部会員の岡村さんの講演とか、パネルディスカッションでも部会員の岡村さん奥井さんが参加されます。定員は300名、参加無料、事前申し込み不要となっておりますので、基調講演の岸本さんという作家の方は、虫垂がんを体験された方で、国がんの倫理審査委員会の委員とか日本対がん協会の評議委員をやっておられまして、「がんから始まる」とか、「がんから5年」とか、「がんと心」とか、非常にがんに関する著書が多い方です。ぜひとも参加をお願いしたいと思います。特に長浜で行われるということで、湖北方面の方はぜひとも参加していただきたいと思います。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。伏木先生よろしく申し上げます。

(市立長浜病院)

鋭意アナウンス中であります。

(鈴木部会長)

では報告事項の3番目、患者会からの報告についてよろしく申し上げます。

3 患者会からの報告について

(がん患者団体連絡協議会)

報告させていただきます。一つ目の報告は資料にはございませんが、東近江のがん患者サロンに図書館協会の東近江市立図書館の方と愛荘町の図書館の方が、サロンの開始時から見学に来てくださりまして、その後ピアサポーター4名で質問とかいろいろなお話をさせていただきまして、図書館協会が今回に特化した情報誌を出していただけるということで、その集まりがございました。とても若い司書さんで愛荘町では、名前を忘れたのですががんに特化した図書の本棚を作ってくださっていたり、はじめ図書館でどんなふうながん患者さんのサポートをされるんだろうかなと思っていましたが、とても意欲的に取り組んでくださっているというお話をさせていただきまして、とても心を丈夫に感じました。ぜひ図書館との連携を患者会としても進めていっていただきたいと感じました。それが報告1でございます。

それからお手元に今日は資料を3つおかせさせていただいております。近畿がん政策サミット・がん患者力向上事業(案)のご案内とお願いという1枚ものの資料がございます。来年2月27日土曜日にピアザ淡海の大会議室216名収容のところで、主催は滋賀県がん患者団体連絡協議会で、あと協力として、滋賀県とか滋賀県がん診療連携協議会、まだご依頼させていただいておりませんが、こういった事業をさせていただきます。午前中は患者力向上事業として、ヴォーリズ記念病院を舞台に映画を作られました「いのちがいちばん輝く日～あるホスピス病棟の40日～」という映画を細井先生と話をし、ぜひ菊井さんどこかで上映したらどうかとお話をいただきましたので、今回この事業で上映させていただきます。ホスピスの病棟の映画ということでご覧になった方がショックを受けたり、家族さんとか少し精神的な動揺がでないか私たち心配しました。その辺のフォローを細井先生にお話させていただいて、やはり人間として最後には死を迎えるということで、おらかな死の捉え方をして、患者力としてホスピスに入った時、がんが治らなかった時にこんなふうな感じで最後を迎えるということを知っておくこ

とがとても重要だなということで、今回企画をしました。これは一般の方にも参加していただけますので、ぜひチラシができましたらご案内いただきたいと思います。実は昨年度兵庫県で行われまして次は滋賀県と指名をいただきましたので今回滋賀県で開催いたします。三日月知事も何回もお伺いしましたら来てくださるといふことで、とても心強いなと思っております。

まだこれは案ですので、決まったことではないのですが、滋賀県のトピックスとしてあげばの滋賀主催で行いました「患者のための滋賀県乳がん総会」で、滋賀の再発転移乳がんケースカンファレンスを立ち上げましょうといふことで立ち上がります。来年度から実際に動くといふことを、この前東出先生にお聞きしまして発表してもいいといふことでここにあげております。沖野先生にはこれからお話をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それと基調講演は皆さんご存知だと思いますが、埴岡先生でがん対策推進についてかなりご尽力してくださっている先生です。基調講演いただいた後は、兵庫では各都道府県が発表してその後でパネルディスカッションといふことでしたが、今回は冒険でがん対策推進計画にあがっている分野別の目標について、グループワークをしようといふことで、がん対策に関わるみんなで意見考え方を伝えよう、聞こう、ともに考えようそして実行しようというテーマでやりたいと思っておりますので、この部会に参加してくださっている委員の方も、ぜひこういったグループワークに参加していただきたいと思ひます。ご案内です。よろしくお願ひします。

三つ目は、乳がんの患者会「あげばの滋賀」の代表をしておりますけれども、患者サロンに乳がんの患者さん結構来られます。サロンでは部位別のがんの患者さんが集まりますので、乳がんの特化した話はなかなかできにくいんですね。そんな時にサロンに参加した方があげばのハウスと言ひますが、同じようなピアカウンセリングしている場所に来て、少し深い話ができほっとしましたといふこともありまますので、ぜひこういった集まりがあるといふことを、もし悩んでいる方がいらっしゃったら皆さんからも紹介していただきたいと思ひます。後はサロン統括責任者の藤田のほうから申し上げますが、がん患者サロン、本当に事務方の方、相談支援センターの方の協力を得まして和やかに進められるようにと部屋のしつらえを考えてくださったり、病院の中で少し参加者が少ないなという時に院内放送を入れてくださったりとか、月曜日は近江八幡だったのですが、初めに院長先生がどうやと聞きにきてくださったりとか、本当にありがたいと思ひております。参加者の推移は年度で締めまますので、どのくらいあるかわかりませんけれども、サロンの責任者会議でもっとこうしてほしいねという責任者のほうから要望がでましたので、藤田のほうから要望としてお話をさせていただきます。よろしくお願ひします。

(がん患者団体連絡協議会)

サロンの参加者をできるだけたくさん作るために、こちらの成人病センターの笑顔の案内板がとてもわかりやすくていいのではないかといふことで、協議会で統一させたらどうだろうといふお話になって、今プリントさせてもらったのを今後各病院で作っていただけたらと思ひております。案内板の矢印が小さくて遠くから見えにくかったりといふこともあって、やはりスムーズに患者さんがサロンの会場まで誘導できるようにしていただけたらと思ひております。先程もおっしゃったように、先日も東近江のほうで、院内放送入れましようかと言ひていただいて、それを聞いて参加しましたといふ方が2名お見えになったので、院内放送の効果はかなりあるなと思ひます。できましたら、いろんなこともあるかと思ひますが、院内放送をできるだけ少なくといふこともあるかと思ひますが、できましたら院内放送入れていただけたらなと思ひております。

それともう一点、各病院の相談支援センターのちらしの裏にがん患者サロンの紹介も入れていただけ

たらしいなと思っております。先程のアンケートの結果で患者会からというかサロンからの紹介はゼロということなのですが、私たちサロンではかなり相談支援センターへとお伝えしていますので、今後とも相談支援センターのほうでも患者サロンとの協力よろしくをお願いします。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。患者会ではいろいろ精力的に行事等をこなされています。要望事項もごございます。各病院さんのお考えもあろうと思いますが、案内に関しては統一するのもいい考え方ですし、院内放送で集客するのも一つの方法かもしれません。

(がん患者団体連絡協議会)

データは岡村さんのほうでお持ちですので、各病院の方でできましたら来月からでも作っていただけたらと思いますしよろしくをお願いします。

(鈴木部会長)

各病院の方にお持ち帰りいただいて、各広報のほう所掌しておられるところのお話を願って OK でしたらそのようにできればと思います。

(成人病センター)

メールでフォーマットをお送りさせていただきます。

(鈴木部会長)

それでは 4 番目、NPO 法人淡海かいつぶりセンターからのご報告です。よろしくをお願いします。

4 NPO 法人淡海かいつぶりセンターからの報告について

(NPO 法人淡海かいつぶりセンター)

NPO 法人淡海かいつぶりセンターは今年の 3 月 13 日に瀬田駅近くにかん患者さんやそのご家族、ご友人、一般の方々を対象にして街中でどこの病院にも所属しない相談支援室ということで開所しました。開所してから半年過ぎたところですが、本日こういう相談支援部会に参加させていただいて、本当にありがとうございます。感謝しております。半年過ぎて利用者の方が少しずつ増えてきています。近江八幡のほうからとか大津からとかいう形で、徐々に増えてきておまして、利用状況については 8 月までですが、資料を入れさせてもらっています。資料を持参して皆さんのお手元に配らせてもらっていますので、それを少し説明させていただいてかいつぶりを理解していただこうと思います。

ご支援のお願いという文を書いたものが一枚入っていると思いますが、申し訳ないですが訂正をお願いします。ご賛同者の中の長浜市立病院と書いていますが、市立長浜病院に訂正をお願いします。

ご支援の方もご賛同していただく方も徐々に増えてきておまして、各病院の先生方からもたくさんのご賛同をいただいております。あとはピンクのリーフレットがありますが、かいつぶりセンターのプログラムの内容を患者さんのお手元に配布している資料です。目を通していただけたらと思います。こういった内容で皆さんのご支援をさせていただいています。

あとは淡海かいつぶりセンターのニュースレターの 2 号を入れさせてもらっています。この記事を見ていただくと、だいたいセンターの今までの流れが少しわかっていただけないかと思います。近畿大学の付属病院と大阪の南海電車のほうから同じようなかいつぶりみたいなセンターを 7 年くらい後に開きたいということで、かいつぶりセンターのほうに施設の見学にお見えになりました。新聞記事が多いのですが、広報活動のひとつとして、新聞記者の方のご協力をいただけてたくさんの新聞に掲載させていただいているのも記載しています。

センターのほうで子供さんのサロンと婦人科がんの患者さんのスウィートピーというサロンを立ち上げて、一月に1回ですがサロンを開いております。参加される方も少しずつ増えてきていまして、スウィートピーの婦人科がんの患者さんは、新聞の切抜きを持ちながらおいでになる方も増えてきています。その子供さんのサロンのレイクファミリーさんですが、11月に学習会を開くということで、案内のポスターを入れさせていただきました。場所は南草津のフェリエで開く予定です。映画の上映をされるのと、小児がんを経験された看護師さんの講演と滋賀医科大学附属病院の小児がんを携わって来られた担当された先生の講演ですので、また皆さん声をかけていただければと思います。

後はかいつぶりセンターのポスターを入れさせていただいておりますので、各施設のほうでご案内していただければと思います。よろしくご協力のほうお願いします。

(鈴木部会長)

ご報告ありがとうございました。特に平成27年度の利用状況に関して着実に伸ばしていただいていると。特にこの趣旨的なところは、やはり普段平日各拠点病院で行っている相談とは少し特色を出した、例えば子供さんとかグリーンとか、まだ数は少ないですが夜間、週末、祝日そういうところに存在意義があると思っております。とりあえずは相談件数を伸ばす。それにもなって、いろんな方の協力も得られるようになります。その基盤はやはりお金と言いますか、寄付でまかなっておりますので、今後どんどん宣伝していってまわっていくというところだと思います。ちなみに先ほど来申しておりますがん基金のほうからもソフト事業としまして、積極支援という形でやっているということですので、今後ともよろしくお願いします。

私はいろんな立場があるので、なかなか言いにくいですが、3つの立場から言わせていただきました。引き続きまして県からの報告です。中間報告になりますので、県がんの対策推進計画についてよろしくお願いします。

5 県からの報告について

(事務局)

県の健康医療課の奥井です。お手元の資料は右上に健康医療課資料と入ったものです。今日はがん対策推進計画、今年度が現在の二期計画の5年間の計画の3年目にあたります。順調に進捗しているか、方向性はこのままでよいか、といった中間評価について皆さんからご意見を戴きたいと思っております。県庁の目線だけではなくて、この部会のそれぞれのお立場、目線からのご意見を頂戴しながらまとめていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いします。

お願いしたいことは4ページ目に書いております。1ページから4ページにかけては、県のがん疾病対策室のほうで記入しました素案にすぎませんが、これについてご意見を皆さんのお立場から頂きたいと思っております。1ページから4ページこの用紙に見え消しか追加記載をしていただいて、FAXでこの下の欄に提出をお願いしたいと思います。回答期限が約1か月後の11月末までをお願いしたいと思います。特にご意見をいただきたいのが3点ありまして、回答内容の①②③のところですが、1ページから4ページにかけて、囲みをしているところが何箇所からあります。こういった判断、記載でよいかどうかについて、追加や修正の御意見をいただきたいということ、また空欄になったままのところがありまして、例えば1ページのいちばん下のところでしたら、がん相談支援センターの利用者の増加と機能向上というところですが、院内の連携システムの構築でありますとか、病院の中で相談支援センターを周知いただくといったことが、県庁ではつかみかねておりますので、各病院でこういった対応をされて

いるかといった現状を、この用紙の余白の部分でも任意の白い紙でも結構です。そちらにお書きいただいて情報提供を戴けないかなと思います。それが二番の空欄部分の記載案についてご意見いただきたいという部分です。

4ページ戻っていただいて、(3)モニタリング方法の具体案というところですが、aとbのかっこを二つ設けてあります。こちらについてこういうふうに測定していったらどうかというご意見をいただきたいなと思います。何かと言いますと1ページに戻っていただけますでしょうか。全体を見渡しますと、(1)目標項目の現状値のところに目標の達成状況をまとめております。目標に向かって全体的には改善傾向なのですが、皆様のご尽力で幸いなことに改善をみておりますが、モニタリング方法が未定となったまま見切り発車している部分が2点ありまして、★マークのところですが、それについては早急にどのように測定していくかということを決めていく必要があると思います。

1点目が医療情報の集約と提供というところですが、滋賀県のがん医療に関する情報の集約整理と提供ですが、こちらをどのようにしていったらどうかを見ていくかという案、二つ目が患者満足度というところですが、ここでは目標項目を医療に関する十分な説明を受けた患者の増加とだけ設定しております、確か二期計画策定の時に、ここをどう評価するか難しいので、あまり性急には決めずに二期計画の間にゆっくり考えて決めていこうかというご意見があったことを受けて、ここに書いてあるように今後モニタリング方法を検討し実施というところに留めておりました。これについてどのようにしていくかという案を、そろそろ皆さんからいただいて決めていきたいと考えます。

目標項目、医療に関する十分な説明を受けた患者の増加という非常に大きなことを書いておりますが、もしかしたらこれでは大きすぎるのではないかなというご意見もあるかなと想像しております、現実的に具体的な小さな目標を設定してはどうか、そういったご意見もいただきたいと思います。先ほどからでございました相談をお受けになった方に限った満足度を、全県的に指標にしていったらどうか、そういったご意見もぜひいただきたいと思います。

以上のような4ページにまた戻っていただきますと、①②③の3点の視点でもってご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞ皆さんそれぞれ病院の相談員さんの立場、医師の立場、当事者の立場、関係の看護協会さんなど、団体さんの立場でこうしたらどうかということや、現状の部分の欄、空白になっているところにご意見をいただきたいと思っております。

最後に2ページのところご報告したいのですが、これまでの拠点病院に限った統計ですが、がん相談支援センターの相談件数の推移をまとめてみました。平成21年度から平成27年度、つい今週ご報告いただいた現況報告から抜き書きをしたものですが、だいたい年を経るにしたがって右肩上がりに上昇を見ております。これらもすべて相談支援センターについての周知活動であるとか、相談の質の向上の結果の表れだと思っております、こういったものも指標の一つに加えていったらいいなと思います。

ご参考にここでは拠点病院だけを書いておりますが、支援病院においてもだいたい年間で全病院で1200件ほどのご相談に対応していただいております、更に棒グラフの上ののってくる恰好です。ご参考に県のがんの罹患数が新規の患者さんが7千人くらいという規模感であります。この1ページから書いてある施策の方向以外のことも、近年お取組んでいただいております、例えばここでは拠点病院のことばかりが記述されておりますが、支援病院の相談窓口も充実をいただいております。新たに高島市民病院さんも指定をお受けになって相談機能の充実をはかっていただいたり、先程ご報告のあったかいつぶりセンターの開設があったり、東近江においてもサロンを開設されたりというふうな新しい取組もぞくぞくとされておりますので、そういったことについても、県民の皆さんにお知らせできるよう

な中間見直しにしていただけたらいいのかなと、少し欲張りですが思っております。今の1、2、3、4ページについて、4ページに書いたようなご意見をぜひお待ちしております。皆さんと一緒にまとめていきたいなと思いますので、本当にお仕事お忙しい中だと思いますが、ぜひお力を貸していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。県のがん対策推進計画の中間評価の意見募集ということです。奥井さん、進捗状況、○△というのは？

(県健康医療福祉部)

判定を書き忘れていまして○△の説明ができていませんでした。○については計画通り、あるいは計画以上に進んでいるという印です。×はどの項目も該当は今のところありませんが、全く取り組めていないと。計画倒れになっていると。△はその中間で計画の方向性で動いているけれど、まだ不十分であるというような感覚で仮のチェックですので、ぜひ訂正いただけたらと思います。お願いします。

こちら紙媒体では扱いにくいので、電子データのほうがよいという方がおられましたら、メールでお配りさせていただきます。どうさせてもらいましょうか。どちらが便利でしょうか。

またメールをいたします。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。では次に協議会事務局から報告です。まず1番目、リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 しが活動報告について21ページご覧ください。

6 協議会事務局からの報告について

(1) リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 しが活動報告について

(2) 滋賀県がん対策推進イベント実行委員会からの依頼について

(3) 平成27年度(第7回)滋賀県がん医療フォーラムについて

(協議会事務局)

協議会事務局の成人病センターの打田と申します。10月24日から25日までの二日間、がん征圧チャリティーイベントでありますリレー・フォー・ライフの2015 しがに参加いたしましたのでご報告をさせていただきます。協議会として参加したのですが、具体的にはこちらにいらっしゃる相談支援部会に依頼させていただきまして、各病院から相談員さんを派遣いただきまして、情報、相談ブースの設営をいたしました。24日は天候にも恵まれまして定期的に来客がありまして、冊子の配付やウィッグ、乳がんの模型等用いまして、説明等を相談員さんに行っていただきました。ただ25日は冒頭の鈴木先生のごあいさつにもありましたように、ブースの運営が困難なほどの強風ということもありましたので、ブースでの運営はやらずに協議会の啓発にとどめたところではあります。

昨年度の経験を踏まえまして今年度は協議会としましては、のぼりとブルゾンを作りまして、そのことによって、協議会として統一感、連帯感をもって活動できたのではないかと考えております。

24日の医療講演や25日のトークセッションの際に各先生方からがん相談支援センターの話題というのがありましたので、そのことによって相乗効果で当協議会のPRができたのではないかと考えております。来年度もリレー・フォー・ライフあると思いますので、ぜひ協議会としても参加したいと考えているところです。また相談員の方にご協力をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございます。参加していただいた方、陰ながら応援していただいた方、ここから改めてお礼申し上げます。引き続きまして、二番目滋賀県がん対策推進イベント実行委員会からの依頼についてお願いいたします。

(2) 滋賀県がん対策推進イベント実行委員会からの依頼について

(協議会事務局)

ご報告と言いますかお願いということになります。ご説明させていただきます。23 ページの資料、がん検診ススメ隊と書いてありまして、滋賀県がん対策推進イベント実行委員会が主催するがん検診受診率向上のためのイベントであります。事務局が天津にあります公益財団滋賀県健康づくり財団というところですよ。23 ページの下に構成団体が書いてありますが、当がん診療連携協議会も構成団体に入っております。今回実行委員会から 11 月から 4 回商業施設でイベントがありますが、そちらに相談員さんを派遣していただけないかというご依頼がございました。協議会としましても、実行委員会の構成団体でございますので、協力はしたいと考えているところです。事務局の案ですが各イベントのところに 2 名程度相談員さんに行っていただきまして、来られた方ががん相談の対応をしていただけたらと考えております。

先程リレー・フォー・ライフの時も申し上げましたが、ブルゾンとのぼりを作成しましたので、実行委員会のほうにあらかじめ物を渡しておきまして、当日は相談員さんが現地に行ってください、相談対応していただいております。なるべく相談員さんのご負担にならないように参加できたらいいなと考えているところですが、実行委員会あてに協議会として協力できると回答してよろしいかどうか、ご検討いただけたらと思います。

(鈴木部会長)

ありがとうございます。何回かに分けて商業施設で不特定多数の人を相手にして啓発を進めるということですよ。ある大きな会場に来ていただいて、1 名ないし 2 名、専門的な相談員の皆様のお力を貸していただきたい、そういうことです。これに関しましてどうでしょう。はいわかりましたと一応お返事をして、手挙げ方式で日程調整させていただくという方向でよろしいでしょうか。特にご異存がなければそれでいきたいと思いますが、何も皆さん本当にお忙しいわけで、土日なかなか計画は立たないかもわかりませんが、最大限協力するというのでいきたいと思っております。よろしくご回答お願いします。

引き続きまして 3 番目、平成 27 年度第 7 回滋賀県がん医療フォーラムについて、私のほうから講師が決まりましたのでご報告いたします。

24 ページをご覧ください。この企画に関しては、県民の皆様、並びに医療従事者の方に、正確で速やかながん医療情報を届けるということを主目的にして年 1 回行っております。しかしながら、普通の医療講演とかでは元より各拠点病院さんが行われていますので、ここでは滋賀県の将来を見据えた、そういったところをを切り口にしてこれまで 6 回行ってきました。第 7 回は 2 月 7 日近江八幡で行われます。

テーマに関しましては、「がん治療の最前線と、患者・家族を支援するシステム、細胞としての“生命”と物語する“いのち”の両立を求めて」ということになっておまして、基調講演、ワークショップ、ラウンドテーブルの 3 つの部からなっております。基調講演に関しましては、この方面の第一人者の若尾先生にご講演を願う予定にしております。それを受けまして、ワークショップでは、大きく二つ、わが県において皆さんに提供できる高度先進医療、それといわゆる滋賀県システムというべき患者家族の

支援システムの紹介ということで、一つ一つはごく短い時間の発表になりますが、すべての拠点病院からでいただくということです。特に相談支援に関しましては5番から8番のところですね、緩和ケアの心をつなぐ、がん相談をもっと身近に、生殖機能の温存、障害者のがん医療、こういったところで発表を願いたいと思います。

ラウンドテーブルはまとめでして、医療提供者、患者、県行政、国の立場から簡単にまとめてみるというところであります。相談支援のブースも各拠点病院さん出していただくことになると思いますが、よろしく願います。以上3つの協議会報告、何かご追加、ご付議等ございませんでしょうか。

(市立長浜病院)

勝手に危惧しているのですが、がん検診ススメ隊の23ページの件で、近江今津とビバシティ彦根とイオン近江八幡と、フォレオー里山にこのメンバーを主に行くことになるんですね。先程相談員が一人か二人とおっしゃったのは、つまりこちら側のこの辺に座っている人たちが分け持って行くのに、本当に大丈夫かどうか、少し危惧をしております。いちばん近い病院の方に行っていただけるのがありがたいけど、お互いにお見合いしていると結局ポテンエラーが出てしまうことがあるので、ここで手挙げを確認しておかなくてとはと、少しだけ心配しています。そんな危惧を抱かなくても誰かが何とかしてくれちゃう、大丈夫ですとみんなが言ってくれたらいいんだけど、みんな顔がうつむいてる人が多いような気がするの。こっち向いてうんうんと言ってくれていると十分安心だと思うのですが。

(鈴木部会長)

伏木先生はいつも私が言いにくいことをしっかりおっしゃっていただくので、ありがたいのですが、打田さんこれは必ず出てくれということではない？

(協議会事務局)

必ずではない。あくまでメインはがん検診ですので。がん相談は付随してあるであろうということで、依頼があったかと思います。

(鈴木部会長)

メインは検診と啓発。その場で相談したいという方がおられた時に専門的な方が対応できるように、ベストな状況で商用スペースでやりたいということですね。

(市立長浜病院)

非常に意義はあると思います。一方で誰も出れなかったらそのブースはなしということで構わないのかどうか。

(鈴木部会長)

それはいいんですね。

(協議会事務局)

はい。

(鈴木部会長)

だからここで例えば柴田さん頼むよと、なかなか言いにくいですし。メールで。難しいですね。

(市立長浜病院)

どこかではそうしていかないと。表情がうかがえるほうが。

(成人病センター)

協議会のほうから、リレー・フォー・ライフの時に出席して下さったような参加できるかどうかの確認をしていただくことになりますね。

(鈴木部会長)

岡村さんありがとうございます。

<その他>

(鈴木部会長)

ではその他に移らせていただきます。まず私のほうから二点、ホームページですが、我々が持っているホームページ二つありまして、県のがん情報しがとがん患者団体連絡協議会さん患者会のホームページです。二つともそれぞれ内容的に齟齬のないように、また効率的に正しい情報を早く知らせるように、アップしていかなければなりません。県のほうに関しましては予算執行で業者が選定されまして、具体的にアップするための委員の方とかそういう方をこれから募って、年度内にアップしていくことになります。従いまして、この委員さんに関しては、相談支援部会をすると診療支援部会も関連していますので、お願いするかと思いますがよろしくお願ひします。

それから2点目はがん推進議員連盟という超党派でございますが、ここも年1回程度フォーラムを開かれています。今年度は2月13日の土曜日南草津のフェリエの会議室と聞いております。各地域選出の議員さんが世話人になります。以前は彦根で開かれまして、今度は草津出身の藤井先生、以前成人病センターで看護師をされていた方ですが中心になって開かれます。またいろいろお願ひされる場合がありますが、あくまで主体はがん議連の企画運営でありますのでその点は認識しておけばと思っております。私からの追加はこの二つです。事務局のほうからお願ひします。

(事務局)

報告させていただきます。国がんの方から12月8日の火曜日に都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の第6回の情報提供・相談支援部会の開催のご案内がありました。当院のほう3委員、鈴木部会長と地域医療連携室の山本室長と岡村さんの3名の委員の方が出席の予定としておりますので、ご報告をさせていただきます。

(鈴木部会長)

ありがとうございます。この部会第6回目ですね。年間6回中央で100人以上集めてやるのは、旅費だけでものすごいお金がかかります。それだけ国は本気なんです。その施策、そこで決まることが次の日には各都道府県で浸透して施策に結びつく。そこの主催されているのが若尾先生ということです。そうしましたら後二つほどございますが、まずは奥井さんのほうから今配られましたチラシについてお願ひします。

(県健康医療福祉部)

オレンジのリーフレットを追加でお配りしました。この団体から県庁にお電話が入りまして、事務局が東京にあるようなのですが、できるだけこの会を皆さんに認知いただくために周知に協力をいただけませんかというご依頼がありましたので、こういう会があるということ、必要とされる患者さんがおられましたらご紹介をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。どうやらホームページもありますようですのでそちらもご覧になってください。

(鈴木部会長)

ホームページ同士リンクしあうとかそういうことも協力できると思います。よろしくお願ひします。そうしましたら、最後に伏木先生のほうからよろしくお願ひします。

(市立長浜病院)

この部会でご報告するのがベストかどうか分かりませんが、がんの授業に関していろんな名前がついているのですが、私自身は3年前から長浜市内の中学校で、今年が2回、去年が1回、今年に入って高島市教育委員会から依頼を受けて、出前講座の一つとしてホームページにあげていますし、教育委員会のおネットというホームページのほうにも、私と成人病センターの水田先生ないし成人病センターとしてということでしたか、出前講座としてお受けしますよという案内が、その窓口があがっているのですが、そういうところに依頼があれば教育に協力しますよとさせていただきます。

水田先生のほうも確か県のほうからのプロジェクト事業として、去年4個、今年が3個、それは予算がでて補助がでて行っている事業なのですか。そこは正確にわからないのですが、私は変な言い方ですが手弁当ですべて行っていて、どこにどうお金が動いているかわからないのですが、高島市の場合は今回はバイエル薬品がいろいろ資料提供とか場合によっては円滑に動かすための教育としてキャリアリンクという団体が実際に顔を出して協力してくれてというのが、湖西中学で行われた分については、メディアの方にも流れてそれはバイエル薬品が協力してやりましたという形で、私も懇意な先生なのですが東京大学の放射線科の中川恵一先生が頑張っただけで動かれたというのが報道されました。そして私も報道していいですかと言われたのですが、バイエル薬品に公務員が協力してやるわけにはいかないのではということで、今回はメディアカットでやりました。

何をお伝えしたいのかわからなくなってきましたが、この間はマキノ中学、来週は朽木中学でやるのですが、水田先生がされている授業の資料とか、私が長浜市立西中でやってきた資料と、今回のバイエル薬品が高島市内でトータル3つ、それから去年伊香立中学でやった実績報告が残っていますので、そういう形で動いています、県教委の動きと恐らくずれていると思うんですね。

県の教育委員会がCDデータを去年と1年かかって作られたものを、今各市町村の教育委員会あるいは各学校まで配布されていて、保健の先生とか内部の先生で授業をどんどんしなさいねという動きもあるのに、パイロット事業の分やら、薬品会社ががんばって動いている分やらというと、何か非常に混乱している感覚も少ししています。

質に差が出るということもあまりいいことではないような気がします。ここの皆さんに相談していてもいかなので、県教委のほうで検討部会が行われていて、患者団体連絡協議会のほうの奥井さんが行かれていて、そちらでの話にも関わっておられる方が先日マキノ中学でも患者体験として発表いただいたりとか、いろんな形で少しずつの接点はあるので、今後整理していこうという動きが出るのではないかと思います。私としては何に従い何から指示を受け、自発的に動いてしまっているのかということについても、やるべきでないのならやらないようにしないといけないのでご指導お願いします。

(県健康医療福祉部)

先生と二人でゆっくりお話をしたほうが良いような気がします。おっしゃるように今ちょうど始まったばかりで、いろんな主体がもぞもぞと動きだしたばかりで、足並みが揃わないという時期なのかと思いますので、早くからご経験のある先生のご意見をお聞きしながら、整理をしていけたらいいと思います。そのことを県の教育委員会にも伝えていきたいと思います。

(鈴木部会長)

今、伏木先生ががん教育のことをおっしゃいましたが、がん教育と我々の部会とどういう関係があるのかということも補足しておきます。日本の部位別のがん、つい最近国会で発表されましたけれども、女性に多い外科入院で乳がんが5位以内に入ってきました。そしてもちろん乳がんというのは、かなり若い働き盛りの時期から始まって高齢にも多いわけですが、そのボリュームが広くな

ってきております。ということは自分の子供さんが、小学生そういう方がかなり増えてきたと。だから小さいお子さんに関しても、物心ついた頃からがんというものはどういうものなのか知っていただく。ただし、予防も含めて小さい時から教育をしようというのががん教育の本意です。実は密接に関わっているわけですね。私の相談と違って私のがんになって私が子供にどのように伝えるか、子供はどれくらいわかっているかわからない。そういうところ、必ずどんどん来る時代になりますので、そういう時にすべての市町の中学校小学校でがん教育を進めていけば、話もスムーズに行くのではないかと思います。最終的には死生観そういうところにも結びつくのかなと思います。追加でした。

(市立長浜病院)

もちろん私が呼びかけているのは、ぜひともがん検診を自分の親やおじいちゃん、おばあちゃんに積極的に呼びかけてください、周りの人たちにも広げてくださいよ、早く見つけるとよく治るのでということとか、皆さんが地域を守る医療者になってくださいねという声かけとか、いろいろ配慮しながらやっていますので、10年以上たつと多少なり意味は出てくるのか、声かけて自分は医者になりましたとか、看護師になりましたみたいな人たちが、今後がん医療を支えてくれる時代がそれなりに来るのかなと思いますので、上手に整理された形で続けられたらいいなと思います。

(鈴木部会長)

伏木先生からすばらしいコメントをいただきました。ありがとうございます。では会の終わりにあたりまして、もう一人の副部会長の芥田先生からお言葉いただきます。

(大津赤十字病院)

今日は皆さん遅くまで議論ありがとうございました。おとなしく聞いているばかりなのですが、私は最初からこの部会に出させていただいています。どんどん項目が増えてきています。就労支援、図書館の問題とか、これまでなかったことがどんどん皆さん、私らは実際ここへきてお話するのがメインですが、実際の相談員の方々が先程もまた検診の方にもというお話もあって、どんどん活躍の場が広がっているのはいいのですが、皆さん無理はしないように頑張ってくださいと思います。

鈴木部会長がおっしゃったように、この部会が県のがんの部会の中でも特に活発に動いていて、成果もあがっている部会ですので、皆さんのおかげだと思っています。今後とも無理をせず、いろいろできる範囲で皆さん頑張って、相談支援を通じて滋賀県のがん対策を良くしていきたいと思いますので、これからもよろしく願います。ありがとうございました。

(鈴木部会長)

では皆さん長時間にわたりましてありがとうございました。これで終了させていただきます。